

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
30	川崎市立 日吉小学校	森島 美子

学校教育目標	今年度の重点目標
豊かな人間性をもち たくましく生きる子 元気・やる気・思いやり	○確かな学力 進んで学び合う子…わかりやすい授業・2年目の校内研究への取組・かわさきGIGAスクール構想ステップ3での端末の活用・一人ひとりに応じた指導・支援の充実 ○豊かな心 認め合い 助け合う子…共生*共育プログラム、効果測定を活用・異学年交流・支援教育COを中心とした支援体制 ○健やかな体 心身ともにたくましい子…地域とのつながり(150周年を核に)・防災安全体制・キラキラタイムの確保

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 ○確かな学力 進んで学び合う子 【重点目標】 ・校内研究2年目への取組と周年行事との関連・GIGAスクール構想ステップ3端末活用	○日吉の児童に身に付けさせたい資質と能力の明確化と、それに伴う指導と評価 ・学習の定着を図るために、学習のめあてに沿った振り返りと次の学習に生かそうとする指導 * 学習のめあてを示す * 授業の最後の振り返りを大事にする	・学校評価アンケートでは、児童では学習を振り返ることができている「そう思う/ややそう思う」が高い割合(85.9%)を維持している。振り返りの重要性を教職員が感じていることから、振り返りを各教科で取り入れ習慣化できていると思われる。 ・保護者においては、「あまり思わない/思わない/分からない」が22%いることから、今年度もノートを持って帰ることが少なかったため、学校での振り返りの習慣は見えにくかったと思われる。(アンケート⑤)	・振り返りの重要性を教員が感じていることで、児童の振り返りが習慣化してきており、次年度も継続して取り組む。その際、学年内で教材研究を併せて行い、授業のどの場面で振り返りを行うかなど、活用の仕方やねらいを教員間で確認し、児童の学びの質を向上していく。 ・保護者に対しては、学習の積み重ねが伝わるように、学習の軌跡がわかるプリントやノートを持ち帰る機会を設けていくようにする。
2	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進(校内研究2年目の取組) ・学習のめあてを意識して、課題や問題に進んで取り組んだり、最後まであきらめずに考えたり、やり方を工夫したりできるような指導 ・校内研究の取組と150周年行事との関連	・校内研究(生活科・総合的な学習の時間)を通して、「進んで学び合う子」の実現を図ってきた。(アンケート⑥) ・「生活科」や「総合的な学習の時間」の学習を生かした内容を150周年式典で発表し、児童自身の取組が見える形で実現できた。学校評価のアンケートの児童からは、めあてを意識して取り組むことに、そう思う/ややそう思うの回答が90.7%であることから推測できる。 ・150年という大きな節目を意識し、地域との関わりや意識の高まりが感じられ、校内研究の教科のみならず、他の教科とのつながりや学び方の定着という点で成果を得ることができた。児童90.7% ・保護者にも、スポーツフェスティバルや150周年の取組など、学校での学びの姿を示すことができたが、学校評価アンケートの保護者からは27%がそう思わない/思わない/分からないが27%いることから、普段の授業の中での様子をみていただくことも必要と考える。	・授業参観等などの機会を通して保護者の方々に児童の学びの姿を示せるように、また、意欲をもてるような課題や手立てを取り入れて、学習を充実させていく。 ・校内研究を通して、児童が自ら課題解決したい思いを大事にした活動を継続できるよう授業改善を進めていく。児童が学び方を理解し、意欲をもてるような課題や手立てを取り入れていく。
3	○児童同士の学び合いの推進 (校内研究での気づく力・ひろげる力をつけるためにかかわることを大事にした取り組み・GIGAスクール構想ステップ3) ・児童同士のかかわりの中で、伝え合いを通して気付く、広げる力を育てることを意識した指導(表現力の育成)	・継続的に表現力の育成を図ってきた。児童の回答では約80%が「そう思う/ややそう思う」と回答している。学年の内訳を見ると、高学年に向けて値が高くなっている。 ・伝え合いに必要なスキルの向上と相手意識の高まりが育成されていると共に、それを自覚できるようになってきていることが考えられる。(アンケート⑦) ・大切なことを聞き取る力や、自分の思いを表現しようとする意識を、日常生活の中でも発揮する部分に課題が見られる。そのことが、保護者の「あまり思わない/思わない」「わからない」と回答している割合の高さ(11%)にも表れていると思われる。	・今後も継続して協働的な学びを多く取り入れることで、大切なことを聞き取り、自分の思いや考えをもつ力を育んでいく。 ・GIGA端末の活用の幅を広げながら、多様な交流の方法を取り入れ、一人一人が多く考えに触れたり自分の考えを広げたりしていけるようにしていく。 ・学校で培った自分の考えをもったり伝え合ったりする力を実生活でも生かしていけるよう指導をしていく。 ・授業参観や学校行事、家庭とのやり取り等を通して、児童が力を発揮している様子に触れる機会を設けていく。

4	<p>○豊かな心 認め合い 助け合う子 【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい人間関係づくりをめざす ・児童支援体制の充実 ・効果測定を活用 	<p>○温かい人間関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわり合いは、あいさつから。あいさつができるように指導 ＊児童会 あいさつミッションの実施 ＊教職員からあいさつを 	<p>学校評価のアンケートでは「そう思う／ややそう思う」と回答している児童は約85%で、昨年度と変わらず多くの児童があいさつする習慣を身に付けている。児童会活動では挨拶運動を行っているが、今年度はさらに月ごとの「あいさつミッション」を設定し、常に挨拶を意識付けできるようにしてきた。一方で「あまり思わない／思わない」と回答している約13%の児童は、すすんで挨拶ができていないことが伺われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あまり思わない／思わない」と回答した約27%の保護者の結果から考えると、校内で子どもたちの挨拶している姿を見ていただけるような機会があるとよいと感じている。また、学校内ではみんなどと一緒に挨拶ができていないが、学校外では進んでできていない状況があると思われる。(アンケート②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中だけでなく、ゲストティーチャーが来た時や校外学習へ出かけた時など、挨拶をする場面は多々ある。教師が範を示しながら、挨拶が習慣付けられるようにしていく。 ・道徳や学活の時間に挨拶の良さや大切さを考える時間を設定し、自発的な挨拶に繋げていきたい。 ・学校のみならず、挨拶を習慣化するためには、家庭と協力しながら挨拶の大切さを指導していきたい。
5	<p>○友だちとの関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級を核として、大小様々なコミュニティ(グループ・係・クラブ・委員会等)において、一人一人が温かい人間関係を築くための指導 ＊共生＊共育を大事に効果測定を有効に活用 ＊人権尊重教育を基盤に相手の気持ちを考えられるように 	<p>○友だちとの関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級を核として、大小様々なコミュニティ(グループ・係・クラブ・委員会等)において、一人一人が温かい人間関係を築くための指導 ＊共生＊共育を大事に効果測定を有効に活用 ＊人権尊重教育を基盤に相手の気持ちを考えられるように 	<p>・学校評価のアンケートでは、児童の90%以上が「そう思う／ややそう思う」と回答している。かわさき共生＊共育プログラムや道徳の授業等、市の推進する人権尊重教育を計画的に実施し、自己理解や他者理解等について学び、その積み重ねが結果に現れてきていると考えられる。(アンケート⑧)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者については「そう思う／ややそう思う」の回答が昨年度とほぼ同程度の割合が示されている(88%)。授業参観やその他の取組の中で児童が自然に思いやりの姿を見せていたことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も相手が心地よいと思う接し方や安心して過ごせるための関わり方について、年間を通して継続的に指導していく。 ・教員は児童が他者に対してよい関わりができた時にはタイミングを逃さず褒め、行動の価値づけを行っていく。 ・市の進めるかわさき共生＊共育プログラムや人権尊重教育に関して、その取り組み方が保護者にもひろめられるよう、授業参観等で実施していく。
6	<p>○学校生活での役割意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の様々な場面で児童が自主的に活動できる場を設け、自主的に行えたことを価値付けさらに意欲をもって取り組めるような指導 ・自己肯定感を高め自信をもつことができるように ＊異学年交流 ＊係 ＊当番 	<p>○学校生活での役割意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の様々な場面で児童が自主的に活動できる場を設け、自主的に行えたことを価値付けさらに意欲をもって取り組めるような指導 ・自己肯定感を高め自信をもつことができるように ＊異学年交流 ＊係 ＊当番 	<p>・コロナ禍前の活動がほぼできるようになり、大多数の児童が意欲的に実行委員や係活動などの活動に励んでいる様子が伺える。学校評価アンケートでは、活動を進んで行っていないと回答している児童も若干おり(あまり思わない／思わないが5.4%)学校生活への意欲低下があると捉えられる。(アンケート⑨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番、係活動等に対する保護者の認知は昨年同様あまり高い数値は得られていない。(76%)日常的な活動が多いため、児童も帰宅後の話題の一つとして挙げるのが少ないことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、自主的に他者意識をもって係活動等にあたる姿を価値付けし、自ら考え行動できる児童の育成に努めていく。 ・活動に対して充実感や達成感を味わせることを行いながら、学校生活への意欲低下が見られる児童の意欲増進を図っていく。 ・保護者には学校来校時や個人面談や学校だより、学年だより等で児童の活動の様子について、頑張っている姿が伝わるように努めていく。
7	<p>○校内の児童支援体制・教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者からの相談を真摯に受け止め、学年内で情報を共有しながら、児童の困り感に寄り添った対応 ＊支援教育COを中心とした支援体制 ＊登校しぶり、不登校児童への対応 	<p>○校内の児童支援体制・教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者からの相談を真摯に受け止め、学年内で情報を共有しながら、児童の困り感に寄り添った対応 ＊支援教育COを中心とした支援体制 ＊登校しぶり、不登校児童への対応 	<p>・学校評価アンケートでは、児童の「相談できる」(そう思う／ややそう思う)と回答している割合は、昨年度とほぼ同じ76.9%となった。今年度も各学年で児童にあった交換授業や読み聞かせなどを行い、担任以外の先生と交流する機会を計画的に実施したことで、様々な先生と話す機会が増え、頼れる大人の選択肢が多くなったことが背景にあると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方、相談できないかもしれない(あまり思わない／思わない)と回答している児童はまだ約20%いる。困った時に誰を頼ったらよいのか考えられない、またはそういう経験がまだないために想像できないことが考えられる。 ・「自分の子が教師に相談できないのではないかと」考えている保護者が学校評価アンケートでは、約40%おり、子どもの学校生活を心配していることが伺える。(アンケート⑩) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOSの出し方受け止め方教育も実施していることを児童に思い起こすようにし、安心して相談できる環境づくりをさらに進め、困った時は相談していいという意識を育てていく。 ・日常から困ったことがあれば担任や学年の教員、支援教育コーディネーターや巡回カウンセラーといった様々な教職員が児童のことを見守っているのいつでも誰にでも相談していいことを広報していく。 ・相談体制の周知を図りながら、保護者からの相談も真摯に受け止め、連携を取りながら解決の道筋を探っていく。場合によっては専門機関と連携し、よりよい対応ができるように努める。 ・日頃から児童の様子を注意深く見守り、異変を察知できるような教職員でいられるよう校内研修等で研鑽を積み重ねていく。 ・校内で起きた事案については、管理職を含め関係教職員と
8	<p>○健やかな体 心身ともにたくましい子 【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な学校づくりの継続を図る ・地域と共に 150周年 	<p>○児童指導の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日吉の子のやくそく」をもとに、基本的な学習ルール、生活のルールを守る指導 ＊学校生活スタンダード 	<p>・学校評価アンケートでは、「そう思う／ややそう思う」と回答している児童は約90%で、ほとんどの児童は学校生活上のルールを理解し、守って生活することができている。保護者の「そう思う／ややそう思う」と回答している割合も昨年と変わらず約90%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、児童会活動(代表委員会)の活動で、子どもたちの中から生活するうえで困っていることやよくしていきたいことを出し合い、話し合っ解決して行くようになった。子どもたちにとって学校生活のルールを確認したり、見直したりするきっかけになっており、なぜそのルールがあり、守らなければならないかを、子どもたち自身が考えられるようになってきている。(アンケート⑪) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が学校のルールについて、確認、見直し、自分たちで考え直して決めていくことで、自身が納得しルールを守ろうとする意識が生まれてきている動きを今後も継続していく。 ・保護者には、引き続き「日吉の子のやくそく」を理解いただくように、学校だよりや学年だよりで児童の様子を伝え、設定している理由とともに、学校のルールを理解いただくように伝えていく。

9	<p>○登下校の安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から児童の登下校時の安全指導に努める。 <ul style="list-style-type: none"> * 集団下校訓練 * 緊急時の下校(地区児童班の活用) * PTA校外委員との連携と地域パトロール 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートでは、「そう思う/ややそう思う」と回答している児童は約93%、保護者の回答は約88%で、子どもたちは「安全に気を付けて登下校する」という意識をもっていることが分かる。 ・一方で、「車道にまで広がって歩いている」「遊びながら歩き、急に飛び出すことがあり危ない」など、保護者の皆様や地域の方々から登下校の安全について連絡を頂くこともある。 ・PTA校外委員さんによる下校指導でも、交通ルールを守れていない児童がいるという報告もあり、校外学習へ出た際には、話になり周りに注意が向かず、危険な行動をとる子どもを注意することもある。子どもたちの意識と実際の行動にはギャップがあり、自分が危険な行動をしていることを自覚できていないことが考えられる。(アンケート③) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生と3年生の交通安全教室だけでなく、校外学習での指導など、機を見て交通ルールや安全について指導していく。 ・地域の見守りの方やPTA旗当番活動に感謝し、引き続き、連携して児童の安全を見守っていく。 ・道徳や学級指導の時間を通して、指導を継続的に繰り返し行っていく。
10	<p>○災害時の行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における危険を認識し、日常的な訓練を生かし、非常時に自分で考えて行動できるように指導 * 防災安全体制 * マンネリ化しない避難訓練を計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートでは、「そう思う/ややそう思う」と回答している児童は90%以上であった。保護者の回答も、昨年度と同程度の約90%である。日頃の避難訓練の成果が出て、子どもたちに防災意識が定着してきていると言える。 ・一方で、保護者の回答「わからない」という回答が多め(8%)なのは、学校で行っていることの周知があまりできていないためかと考えられる。今年度は、保護者の方々が訓練の意図を理解し、参加してくれたおかげで、3年ぶりに全校で総合防災訓練・引き取り訓練を実施することができた。(アンケート④) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練がマンネリ化しないよう、年間の計画を立てる際に考慮していく。 ・引き続き災害時に自分から動けるように定期的に指導をしていく。 ・訓練効果が高められるよう学校での訓練の様子を家庭にも知らせ、非常時にどのような行動をとるかを各家庭でも話し合ってもらうためにも、学校での訓練の様子をお伝えていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに関して、子どもたちははしていると感じている。あいさつが返ってこないこともあるが、大人からすると日吉の子は、あいさつを返してくれる。子どもたちは大人、家庭をよく見ている。保護者を含め、大人が手本を見せよう。先生方からあいさつが返ってこないことがあるので、併せて子どもたちの手本となしてほしい。 ・登下校の安全に関すること、登校時の様子は良いが、下校時に道路に広がるなど乱れている感じがある。登下校中に、歩行マナーが悪く自動車の運転手が子どもたちに大声で怒鳴っている様子を見たこともある。交通安全に関することについて、再度確認していく必要がある。 ・学校評価アンケートを見ると、児童と教職員の意識の違いが大きいところがある。また、「あまり思わない/思わない」といった所に焦点をあて、改善策を考えてみる必要があるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に焦点をあて学習材を掘り起こし単元を作り上げ、2年目を迎えた生活科・総合的な学習の時間の研究において、児童の実態に合わせ探究活動を進めてきた。それを創立150周年記念式典での各学年の発表に充てることで、児童が自分たちの住む日吉の地域をより意識し、地域の方々とながらつながることができた。次年度も「進んで学び合う子」をテーマに研究を継続し、これまで以上に児童の探究心を掘り起こし、自ら思いや願いを貫く活動になり、一人ひとりの考えを大事にするかかわり、協働的な学びも大切にしていきたい。 ○校内児童支援体制・教育相談において、支援教育COを中心に支援体制が整い、外部機関との連携もできている。しかしながら、1000人以上の規模で支援教育COが一名と苦しい体制である。次年度は、市では不登校児童への支援に力を入れていくことから、校内でも各学年の支援部会のメンバーの役割を拡充できるようにすると共に、全教職員の支援に関する意識をより高めていくようにしたい。 ○GIGA端末の有効的な活用と個別最適な学びとの関連を図る。また、情報に関するマナーやモラル、インターネットの危険性等を繰り返し指導していくようにする。